

《担当者名》准教授 / 伊藤 邦彦 准教授 / 小田 雅子 講師 / 久保 儀忠

【概要】

欧文誌論文の抄読を中心とした演習を通して、英語読解力・論文作成能力を養い、さらに薬剤学特論 の講義内容について基礎的理解を深めることを目的とする。

【学修目標】

- ・最近の製剤開発の中で利用されている製剤添加物に関する文献を系統的に抄読し、今後の製剤開発における製剤添加物の役割を理解する。
- ・ドラッグデリバリーシステム(DDS)に関する文献を網羅的に抄読し、創薬におけるDDS技術の重要性を理解する。
- ・医薬品の吸収と脳内移行を制御するトランスポーターに関する最新の文献を抄読し、医薬品の構造とトランスポーターの関わり合いについて基礎的知識を学ぶ。

【学修内容】

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|------------|------------------------|---|-------|
| 1 } 5 | 製剤開発と製剤添加物 | <ul style="list-style-type: none"> ・最近の医薬品製剤の開発に関する動向について説明できる。 ・様々な剤形で用いられる製剤添加物について、その種類ならび添加物の特性について説明できる。 | 久保 儀忠 |
| 6 } 10 | ドラッグデリバリーシステム | <ul style="list-style-type: none"> ・製剤化技術としてのドラッグデリバリーシステムについて、その目的、概略を説明できる。 ・放出制御型DDSについて説明できる。 ・吸収促進型DDSについて説明できる。 | 伊藤 邦彦 |
| 11 } 15 | 薬物の薬物動態におけるトランスポーターの役割 | <ul style="list-style-type: none"> ・薬物の体内動態におけるトランスポーターの役割について説明できる。 ・消化管吸収に關与するトランスポーターの機能について説明できる。 ・血液脳関門のトランスポーターの機能について説明できる。 | 小田 雅子 |

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

授業態度（30%）、課題レポート（70%）

【教科書】

各講義ごとに、資料を配付する。

【参考書】

図解薬剤学（南山堂）

臨床製剤学（南江堂）

Applied 臨床薬物動態学（京都廣川書店）

【学修の準備】

関連する分野の基本的な知識を復習しておくこと。